

# 病害虫防除技術情報第16号

平成27年11月19日

三重県病害虫防除所

**QoI剤(ストロビルリン系殺菌剤)耐性イネいもち病菌が本年も確認されました。QoI剤を適切に使用するとともに、いもち病の基本的な防除対策を徹底しましょう。**

1. 対象作物： 水稻（飼料用水稻を含む）

2. 対象病害虫名： イネいもち病

3. 三重県におけるQoI剤耐性イネいもち病菌のモニタリング調査結果と発生状況

三重県農業研究所では、平成27年6月から8月に県内の17市町から採取したイネいもち病菌・603菌株に対して、薬剤添加培地での感受性検定によるモニタリング調査を行いました。その結果、13菌株でQoI剤耐性イネいもち病菌（以下、耐性菌）が確認されました。

昨年度は2地点において2病斑の耐性菌が、本年度は3地点において7病斑の耐性菌が確認された状況から、県内での耐性菌の発生は、一部の圃場、地域にとどまっており、QoI剤（表1）のいもち病防除効果は低下していないものと判断されます。

耐性菌は三重県以外ではこれまでに、九州地方から東海地方にかけての14府県（山口県、島根県、愛媛県、福岡県、佐賀県、大分県、宮崎県、熊本県、岡山県、兵庫県、鳥取県、京都府、滋賀県、岐阜県）と東北地方2県（秋田県、宮城県）で発生が確認されています。

今後の対策として、耐性菌をまん延させないためにQoI剤を適切に使用するとともに、いもち病の基本的な防除対策を再度徹底しましょう。

4. イネいもち病防除におけるQoI剤耐性イネいもち病菌の発生を防ぐための注意点

(1) QoI剤（表1）の使用は最大年1回までとし、採種圃場での使用禁止を再度徹底しましょう。

(2) 長期持続型QoI剤の育苗箱処理は、耐性菌の選択を高める要因の一つとして考えられています。作用機構の異なる薬剤とのローテーションで使用するか、耐性菌の発生リスクが低い薬剤を選択しましょう（表2）。

(3) QoI剤を本田で使用する場合、多発時の使用を避け、葉いもちに対しては初発前あるいは発生初期に、穂いもちに対しては薬剤の使用適期に散布しましょう。

(4) いもち病防除の基本となる防除対策を再度徹底しましょう（種子更新を行い、健全な種子を使用する、塩水選や種子消毒を確実にを行う、伝染源となるわらや粃を育苗ハウス内に放置しない、補植用の置き苗は早めに処分する、など）。

(5) 以上の取り組みを地域一体となって実施しましょう。

(6) QoI剤で防除したにもかかわらず、効果が著しく低かった場合は、病害虫防除所、農業研究所、農業改良普及センターや関係団体へ御連絡ください。

表1 イネいもち病を対象としたQoI剤  
 ※最大年1回の使用としましょう。

殺菌剤のグループ	耐性菌の発生リスク	有効成分名	商品名の例
菌11 (QoI剤)	高	アゾキシストロビン	アミスター
		オリサストロビン	嵐
		メミノストロビン	イモチエース、イモチミン、オリブライト、オリザトップ

表2 イネいもち病を対象としたQoI剤以外の農薬  
 ※耐性菌の発生を防ぐため、作用機構の異なるグループでのローテーションで使用しましょう。

殺菌剤のグループ	耐性菌の発生リスク	有効成分名	商品名の例
菌P (抵抗性誘導剤)	耐性菌未発生	プロベナゾール	オリゼメート、Dr.オリゼ、ビルダー、ジャッジ
		チアジニル	ブイゲット、アブライ
		イソチアニル	ルーチン、スタウト、ツインターボ
菌16.1	耐性菌未発生	トリシクラゾール	ビーム、ラテラ
		ピロキロン	コラトップ
		フサライド	ラブサイド
菌U14	耐性菌未発生	フェリムゾン	(フサライドとの混合剤)ブラシン、 (トリシクラゾールとの混合剤)ハンブラス
菌6	低～中	IBP	キタジンP
		イソプロチオラン	フジワン、(ピロキロンとの混合剤)ピカピカ、フジトップ
菌24	中	カスガマイシン	カスミン、(トリシクラゾールとの混合剤)ダブルカット
菌1	高	チオフアネートメチル	トップジンM
		ベノミル	ベンレート

FRAC Code List (2012年2月現在)による分類。平成27年版 三重県病害虫防除の手引きを参照。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。